文化服装学院　学校関係者評価委員会　報告書

文化服装学院　自己点検・評価委員会

2023 年 12 月 1 日

目　　次

1.　報告書骨子　2

2.　学校関係者評価委員　2

3.　学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価に対する総評　3

4.　学校関係者評価委員による文化服装学院自己点検・評価への提言

1) 教育理念　4
2) 学校運営　6
3) 教育環境　9
4) 学修成果　11
5) 学生支援　14

5.　学校関係者評価を受けて　21

6.　学校関係者評価委員会開催日程　22

1.　報告書骨子

学校関係者評価委員会（以下、当委員会）は、文化服装学院学校関係者評価委員会規程に基づき、平成25年4月1日に設置した。当委員会は文化服装学院（以下、本学院）の自己点検・評価の結果について客観性と透明性を高めるとともに、学外の関係者から専門的な助言を得るため、外部評価を実施する機関として組織した。

当委員会は、本学院の自己点検・評価を基に、自己点検・評価委員会の内部評価を参考に、関係教職員との具体的な意見交換を通して、本学院の学校運営・教育活動について検証・評価及び助言を行うことを目的として実施している。

当委員会委員は外部委員のみで構成され、本学院の教育理念を理解し、人材育成等に精通した学外の関係者の中から学院長が選考し、委嘱している。委嘱された委員は下記のとおりである。

2023 年度は、2022 年度の本学院の取組みに対し、当委員会としての評価・助言をいただいた。本報告書はその評価・助言をまとめ作成したものである。本報告書に記載した評価・助言は、具体的な事項であり、本学院の発展に資するという考え方に則り、過度に要約することなく記載している。

本報告書の作成にあたり、当委員会の委員の方々には、お忙しいところご尽力いただき、改めて深く感謝申し上げる。

2.　学校関係者評価委員

委員長　澤田勘志（株式会社 MORI パーソネル・クリエイツ　代表取締役社長）
委員　芦川照和（SUN デザイン研究所　プロデューサー・本学院卒業生）
委員　松本ルキ（株式会社オールファッションアート研究所　代表取締役・本学院卒業生）
委員　木島　広（株式会社フクル　代表取締役・本学院卒業生）
委員　矢野　剛（株式会社繊研新聞社 取締役　編集局長）
委員　岡本真理子（株式会社海外需要開拓支援機構　事業開発・連携推進グループ　担当部長）
委員　小湊千恵美（株式会社レコオーランド　ファッションディレクター　コレクション担当・本学院卒業生）

3.　学校関係者評価委員による文化服装学院　自己点検・評価に対する総評

文化学園創立 100 周年を翌年に控えた 2022 年度の自己点検・評価は、100 周年を機に「時代に合わせて変えていこう」、「新たな一歩を踏み出そう」とする強い意志が随所に読み取れるものであった。目指す先にあるビジョンの共有と、そこに向けた具体的な取り組みが推進されることを期待している。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の直接的な影響は薄れ、コロナ禍前の教育活動の場を取り戻してきたが、多くの教職員は現場において、コロナ禍による行動制限の影響を強く受けた学生たちの気質や学びに向かう姿勢、教育に対するニーズの変化を感じる場面に遭遇し、戸惑いを抱いているように感じられた。また、コロナ禍を経て更に急速に進んだデジタル化や、DX（デジタルトランスフォーメーション）による効率化に向けた取り組み、法令遵守、ハラスメントへの対応、SDGs、社会貢献の状況など、社会が教育現場に抱く要望、向ける目も厳しくなっている。加えて、日本国内の急速な少子高齢化と服飾分野離れによる学生の減少が強く予想されていることから、外的要因としても様々な変化を求められている難しい状況である。これらへの対応策を検討するにあたり、自己点検・評価や学校関係者評価といった、教職員や外部委員による学校・教育活動の評価機会において、新たな観点から課題の抽出、検討、評価を試みることに加え、学生の意見、評価も取り入れる仕組みの検討があっても良いのではないか。

昨年の本委員会において委員から提案のあった本委員会自体のダイバーシティ化の一つとしての女性委員の登用について迅速に対応した本学院の柔軟性と変革へのスピード感を高く評価する。多様化が進む世の中における本学院のこれからにさらに期待をしている。

本学院の掲げる「共創教育」においては、社会や企業など様々な立場の人々とのコラボレーションを通して、いかに学生のファッションに対するパッション・情熱を掻き立て、夢に向かう背中を押していくかが重要な鍵となるであろう。変革の時代にあって、日本国内に残る伝統技術を知り、継承、再興や、見出される新たな価値創造もこれからのファッション業界の発展につながるものと思われる。

学生各自の個性・特性を育みながら、社会の要請を鑑みつつ、デジタルで行うこと、人にしかできないことを見極めて取り組むことを強く望む。

約 100 年にわたる伝統を守りつつ、本学院の更なる発展を期待している。

4.　学校関係者評価委員による文化服装学院　自己点検・評価への提言

2022 年度自己点検・評価において、本学院が設定している評価項目に対する委員からの提言は以下の通りである。

1)　教育理念

①文化服装学院の教育理念

[本学院の現状]

学校教育法に基づき、服飾に関する専門知識・技術を教授研究し、服飾教育界、ファッション産業界に貢献すると共に、高度な技術と教養を備えた創造性豊かでグローバルに活躍できる人材を育成することを教育の理念としている。

また、本学院の強みであり 100 年にわたって継承されてきた、つながりを大切にした共創教育で、ファッションを通し持続可能な社会へ価値を提供できる人材を育成することが本学の社会的責任である。

4 つの専門分野に特化した課程を設置し、それぞれ世界に通用するオリジナルのカリキュラムをもって学生の自主的な学修を促進している。さらに国内外のファッション企業や卒業生のネットワーク、コラボレーション事業、インターンシップといった外との繋がりや、学内イベントにおける過程を超えた協業で、情報の共有や交流、企画立案から準備・実行を体験するなど、共創教育による学びの場を積極的に提供していく。その場を通して学生が、常に新しい知識・技術を追求し、自主性や積極性、問題を発見し解決していく能力を育くめるように、時代に合わせた創造的な学修方法と教育環境、場を提供することによって積極的な役割を果たしていくことが本学院の使命と考えている。

一人ひとりの個性を大切にし、国際的・多様化に対応できる人間力を身に付け、高い専門知識と技術を習得した学生を育成することが、本学院の目指すファッション教育の方針である。

[学校関係者評価委員からの提言]

・文化服装学院が目指してきたもの、そしてこれからも目指していく方針が的確に表現されている。
・コロナでファッション業界も服飾学校も大変傷ついた。しかし、日本のファッション業界に多大なる影響を及ぼしてきた学院の創立 100 年の節目を控え、この先の 100 年も日本のファッションが世界に影響力を与え続けられるよう、優秀な人材育成に取り組んで欲しい。
・創立 100 年を控え、これからの 100 年を見据えた目標なども織り込めればと感じる。近年取り沙汰され、高度に進化し続ける「AI」、「サスティナブル」等への対応や応用なども課題の一つと思う。
・１００年にわたり培われてきた「共創教育」の理念は明示・検証され、今や共通認識として授業・教育に取り入れられている。4 つの専門分野の方針も示され、時代に合った教育理念となっている。
・共創教育や持続可能な社会への価値提供といった教育理念の明確化を高く評価する。また、各分野での教育目標と人材育成像を棲み分けされたことで、全体的にすっきりした印象である。
・服飾に関する高度な専門知識や技術を持った人材を育成することを使命とし、常に時代を意識してアップデートを続けてきたからこそ、100 年という長きにわたり多数の素晴らしい人材を輩出されてきたのだと考え、皆の努力に敬意を表したい。昨

今、デジタルが台頭し変化のスピードはさらに加速しているが、むしろ人の創造性が重要になると考える。多様性を尊重し、学生の個性を伸ばす教育を期待する。
・教育理念を理解することができ、時代にも沿っているので適切だと評価する。

②課程及び関連科目の教育目標、人材育成像

[本学院の現状]

各課程および関連科目は、各課程の役割に基づいた人材育成像を達成するために、時代や社会情勢の変化に対応した要素を検討、抽出し、教育実践を行っている。

[学校関係者評価委員からの提言]

1. 服飾専門課程

・人材育成像が明確で、適切である。また、人材育成に関する具体的な取り組みが明記されており評価する。
・課程の特徴や工科課程との違いが明記され、時代や業界の動向に応じた教育目標が設定されている。
・ものづくり・縫製テクニックが特色で、前年度の課題の検証や次年度の目標も明確にされている。
・ファッション業界の仕事は一人で完結できるものはほとんどなく、協力し合うものであるため、全体を把握し、服飾の基礎を学んだ上で専門技術を掘り下げる構成になっている点がよい。

2. ファッション工科専門課程

・専門領域ではあるが、コミュニケーション能力について明記されていることが評価できる。
・コラボレーションやインターンシップについても評価できる内容である。
・産学連携を強化し、ファッション業界への人材育成に注力している。生産技術や人間力の育成、社会の変化を取り入れた共創教育を重視。コラボレーションやインターンシップで業界との繋がりを強化している点が評価できる。
・社会の変化や産業界との関りなど、より深められている。理念、目標、人材育成の関係が全体に整理され適切である。
・企業とのコラボレーション授業や世の中の動きの即したカリキュラムへの検討が行われるなど、即戦力となる人材育成を目指して様々な見直しがされている点が良い。
・より実践に近い教育と、その意味が理解できる内容で、適切である。

3. ファッション流通専門課程

・6 つのコースが用意され、それぞれに取り組む方向性が明確であり、各コースの細部検証がされている。今後のファッション流通業界において時代にそぐった内容を一層充実させていくことに期待する。
・ファッション業界の流通の職種に特化したコースを提供し、1 年次から実践的学びと産学連携を実施。時代に合わせた教育と共に、学校行事を通じてコミュニケーションやリーダーシップ育成も望ましい。
・ビジネスに役立つ実学に根差したコースの設定がされており、産業連携の継続なども適切である。
・各コースとも特色のある専門科目であり、現場がデジタル化により手法や技術が変化し多様化している中で、それに対応できるよう、実践的な専門スキルの習得を目指して創意工夫されている点を評価する。
・実践的な教育と、その意味が理解できる内容で、適切である。

4.　ファッション工芸専門課程

・各アイテムのクリエイションに携わる貴重な人材育成への取り組みが適切である。
・各コースの細部検証がされている。今後は特に「伝統工芸」「職人技」などの育成についても検討を望む。
・各コースでは技術や知識に加え、想像力の育成も行われており、社会で必要とされるコミュニケーション力やチームワーク、社会貢献意識の向上を目指して、適切な内容が評価できる。
・実学においても役立つ能力を引き出す内容になっている。
・各科とも専門性の高いコースであり、特化されていることでより深く、実践的な学びを意識している点を評価する。一方で、学生のうちに様々な物作りの現場に行く機会があると良いと考える。
・創造性とコミュニケーション能力、産業界への貢献など、具体的な内容が理解でき適切である。

5.　①Ⅱ部服装科　　②Ⅱ部ファッション流通科

・Ⅱ部の特性、限られた時間の配分など考慮され、プロ人材の育成を目指していることが理解できる。
・夜間の短い時間内で、即戦力となる人材の育成を重視。社会人のバックグラウンドを活かし、社会に貢献できる人材を目標としており望ましい。
・夜間に学ぶ学生の特徴に合わせた内容である。また、社会人だからこそ社会貢献の重要性を再認識できる内容だと思う。
・夜間に、2 年 3 年かけて学ぶ機会を提供している点を高く評価する。即戦力となる人材の育成を期待する。
・Ⅱ部ならではの人材育成・輩出の理念が明確で適切だと思う。

6.　関連科目

・多岐にわたるが、具体的な表現があり評価できる。
・各課程の直接的な学びだけではなく、アカデミックな学習内容に対する学生達の興味を如何に向けさせるかが課題であると感じる。
・関連科目は各科の基礎的な学びを意識した内容となっている。
・デザインの基礎となる知識や人間性などを育む、特色あるカリキュラムだと思う。また、即戦力、あるいは産業界で活躍できる人材育成像も明確であり評価できる。
・関連科目とされているものの幾つかは、例えば服装史、アパレル素材、デジタルファッションや語学などは、教養として必修科目であるようにも感じる。
・課題解決を目指す教育内容が評価でき、適切である。

2）学校運営

①法人組織　②学校組織

[本学院の現状]

法人では、業務改革支援室が、学園の総合的な業務の効率化に向けた電子決済実現のためにシステム構築を継続して行っている。また、多様な働き方へ対応できるよう、勤怠システムを確定し、構築を開始した。

現状の労働法等に即した形になるように教員の勤怠管理規程の見直しを行った。

事務局および教員組織における情報共有の推進を継続して行っており、事務局員、教員双方において業務の効率化が図られた。

新採用教員も含め、教員のニーズを考慮した研修の企画・実施を継続し、教育レベルの維持・向上、専門力の強化を図っている。

教職員による 5 つの委員会（教育課程編成委員会、学生生活・留学生支援委員会、研究企画委員会、キャリア支援委員会、自己点検・評価委員会）と外部委員による学校関係者評価委員会が組織され、学校運営の改善について問題の提起、検討、解決、検証を行っている。

学園創立 100 周年に向けた取り組みを推進している。

[学校関係者評価委員からの提言]

・教育理念とは別に、学校運営の中長期計画があると良いのではないか。国内の少子化に伴い、主な収入源である学生納付金の減少が想定される中、存続に向けた戦略策定を行い周知することで、各部署が自らの立ち位置を理解し、それぞれが取るべき策を検討できるようになることが期待できる。収益を産む事業と価値を生む事業を明確にし、価値を生む事業に投資し続けることが将来につながると考える。
・取り組むべき課題は多いが明確に抽出されているので、改善に期待したい。
・各分野の取り組みがコロナ禍から日常に戻り、改善や工夫が顕著に見られる。課題も多く残されてはいるようだが、方向性は正しいと思う。一方、大きな組織は非効率さがつきまとうので、効率化に向けた取り組みを続けることに期待する。
・教育機関であると共に健全な法人として運営してゆく事は様々な問題点が有ると思うが、なかなかの難題が多い中、少しでも改善しようという委員の気力が伺える。
・教員や職員の研修が盛んに実施されていることは、評価できる。継続して行っていくことに意味がある。
・キャリア支援委員会の取組としては、インターンシップがもう少し就職に結びついても良いと思われる。本来は就職のためのものではないが、企業側も受け入れにパワーが必要なため、お互いのメリットとして取り組んでいくことが必要だと思う。
・各委員会の意義を時代に合わせて見直し、改善も必要ではないか。
・創立１００周年に向けた準備・取り組みを評価する。
・学校運営におけるデジタルを核としたシステム化による効率を高め、インフレを踏まえたポジティブな人事・給与制度改革を実施し、職員・教員の人材育成・人材確保につなげて欲しい。
・校内外に向けたインターナショナルな表記・表現・活動について、取り組みが遅れているように感じる。
・時代に即した、継続的な改革が求められる。

③財務状況

[本学院の現状]

全学的な入試広報体制により、学生数の維持に努め、学納金収入の増加につなげている。

文部科学省の修学支援制度は認定申請を継続して行い、新入生の 10%程度が活用しており、学生の勉学の継続の一助となっている。

東京都や私学財団の補助金を活用し、教育備品等の充実に努めている。

学園創立 100 周年記念寄付金が多数寄せられた。

各種の経費支出が削減・低減されたが、コロナ禍による活動制限によると考えられるため、引き続き個々の取り組みと経費支出のバランスを考慮した運営に取り組む。

学園全体の人員配置・人員補充については学園の方針に従い、適材適所の配置、就業規定変更に伴う教員・職員の適切な労務管理及び内外情勢に配慮しながら、引き続き適切に進める。

[学校関係者評価委員からの提言]

・学生募集目標を達成していることは大きな評価に値する。人口ピラミッドの変化

や、ファッションへの興味・関心の変化でいうと、大変難しい課題を抱えていることになるが、ぜひ業界全体のためにも高校生への広報活動に引き続き力を尽くして欲しい。
・経費の見直しは常に必要で、削減できるものはまだあると思うが、人件費に関してはあまりやり過ぎると本末転倒になると思われる。人件費の削減が一番のインパクトになるが、その分、他の教員や職員への負担になったり、現場が疲弊することが危惧される。
・少子高齢化が急速に進む中、リスキリングなどに対する対応も期待している。
・学生数確保のための広報、補助金等の活用ともに、重要である。
・学生数の減少に対する取り組みを継続することに加え、デジタル化・グロバール化・コンテンツ化などの複合的な戦略が必要ではないか。
・学院全体の１/３の事業規模を担う収益事業部門に関する評価も重要。
・収益事業部門の売上及び利益の減少に歯止めがかからず、利益が約半減となっている。
・約４億の損益計上している出版部門の早期改善に対する時流に合った投資が必要ではないか。
・何より財務が健全に運営されていることを高く評価する。
・補助金の活用など必要な手段を講じていることは評価できる。国内生徒数減少に伴い海外からの留学生獲得に動く、提供価値向上により単価を上げる、DX 化推進により業務効率を上げる等、将来の財務体制確保に向けた具体策の検討を期待したい。
・就学支援制度など、意義のある改善の取り組みが読み取れる。

④法令等の遵守

[本学院の現状]

法令遵守として、過去の学則及び関連資料の分類・整理とデータ化を推進している。また、各種規定の整備を継続して行い、公表している。

ハラスメント防止につながる「学生対応研修」を、全教員を 10 名程度の少人数グループに分けて実施した。学生の気質が変化している昨今の学生の気持ちを理解する方法を学んだ。

今年度は、ハラスメントに関するアンケートは実施しなかった。次年度は学生相談室等と連携を取りながら実施をし、状況分析、対策を講じる予定である。

学生等からの相談内容を必要に応じて共有し、担当教員に確認を取りながら、適切な注意、指導を行った。

[学校関係者評価委員からの提言]

・刻々と変化する社会環境、法務等に的確に対応する深刻さが伺える。ハラスメントに関してはセンシティブな課題であり、改善に向けてより丁寧な対応を求めます。
・取り組みは概ね前進していると感じた。現在は世界的に人権問題に厳しい視線があり、教育現場も決して無縁ではなく、グローバルな課題でもある。その点で個人情報保護のガイドラインやハラスメント調査に関してはやや不十分さを感じた。
・ハラスメントのアンケートは早めに実施すべきである。自助浄化作用が働く組織と働かない組織では、後々大きな差が出てくる。
・ハラスメントに関するガイドラインを、学生とも共有する必要性も感じる。
・個人情報保護に関する具体的なガイドライン策定とハラスメント実情調査を早急に実施する必要があり、また継続的な研修等が必要である。
・個人情報やハラスメントに関する職員の意識向上については、外部のオンライン研修の活用も検討してはどうか。

⑤社会貢献等の取組

[本学院の現状]

文化祭が開催され、バザーや講演会の中で行ったチャリティーオークションの売上金を社会活動団体へ寄付を行った。売上金を寄付する社会活動を通じて社会貢献に対する意識向上が見込まれる。

学友会活動の一環で行なう「赤い羽根募金」と「口と足で描く芸術家協会作品の販売協力」は、社会事業専門委員会の学生、教員の尽力により実施した。また昨年に引き続き、課題作品製作過程で発生した残布や企業から提供された残布を学生が課題作品制作に活用することを目的に、無料で希望学生に配布する活動を学友会委員が中心となって行った。今後も学習活動を行いながらゴミを減らす社会貢献を継続して取り組んでいく。

学びの場を広げるべく、生涯学習講座としてオープンカレッジと通信教育を実施している。オープンカレッジ、通信教育共にオンライン講座を積極的に開発し、ライブ配信、オンデマンド配信、対面授業を組み合わせた授業を企画実施するなど、新たな受講生を獲得している。また、小中学校における家庭科の被覆分野の教育が減っており、経験の少なさからものづくり（被服製作）に高いハードルを感じる人が多いことから、パターン付きの講座を新設するなど、気軽にものづくり（被服製作）を経験できる環境を提供し、楽しさや達成感の享受と思考力、想像力、表現力の向上を目指した。

[学校関係者評価委員からの提言]

・社会貢献活動については概ねよい。コロナ禍ではなかなか活動が難しかったと思うが、動き出しており、いろいろとアイディアも出されていることを評価する。
・活動内容の積極的な広報や、地域住民、近隣法人などとの連携も検討するとよい。
・地域自治体や外部 NPO 団体等との取り組みで、さまざまな貢献の可能性があると思われる。
・社会貢献活動は継続して行われており、評価する。明確な社会貢献方針を設定し、実行に取り組むとより一層良い。
・概ね取り組み全体は前進していると思う。ただ、社会貢献は単なる寄付やチャリティー、ボランティアなどで終わらせてほしくない。教育理念の実現や人材育成の観点からも高く位置付けることを期待する。
・社会貢献活動を継続していることは素晴らしい。今後は、ファッション専門学生が取り組む社会貢献活動として、彼らのアイディアも取り入れるなどして、クリエイティブで多様性の感じられる活動となることを期待する。
・公開講座について、収益性を高める方向で、これまでとは異なるターゲティングや講座内容の検討をしてはどうか。
・社会貢献の方針の明確化は必要だと感じる。
・活動自体は評価する。ただし理念から見ると、やや「できること」にとどまっているように感じる。学生や外部のアイディアも取り入れながら、発想や視野を広げていくことに期待する。

3）教育環境

1　施設・設備

[本学院の現状]

2022 年度のクラスの増減に合わせ、授業運営に滞り概要ないよう調整を図った。施講義室や実習室の使用申請については Web 予約を導入し、管理の簡便化と教員の業務負担軽減につながった。老朽化した施設・設備のリニューアルを計画的に進めてい

る。施設設・設備・備品の計画的な管理・運営については、恒常的で重要な課題であり学園全体での調整と改善に引き続き務める。

[学校関係者評価委員からの提言]

・昨年に引き続きの意見だが、我々学校関係者評価委員が点検・評価表等資料のみで判断することが難しく、特に教育環境については実際に学内ツアーで見学できるとわかりやすいと思う。
・大規模校として充分な取り組みが出来ているのか再検証の必要ありと考える。学内に留まらない施設の有効活用なども視野に入れてはどうか。
・特別講義用の講義室不足は、要因を明確にし、学園全体で調整し、施設見直しを検討すべき。
・バリアフリーへの対応が今後の課題。
・概ね対応できており、未対応の課題も計画が明記されている。また、ＩＴ関連は大きく前進している。
・全学無線 LAN システムや WEB システムの導入は評価する。IT 機器やシステムは常に進化しているので、継続して更新を検討することを期待する。また、SNS 配信のための機材やスペース、オンラインミーティングやプレゼンのためのツールなど、日常業務で使用されるようになったツールの導入も、即戦力育成に寄与するのではないか。
・施設設備に対する十分な取り組み姿勢が読み取れた。

2　付属機関・施設

[本学院の現状]

学生に対し情報や機会を創出し提供する学修支援機関・施設として、図書館、服飾博物館、ファッションリソースセンター、国際交流センターを設置し、学内外における活動の広がりを支援する積極的な取り組みを行っている。

学生に対し生活をバックアップする生活支援機関・施設として健康管理センター（医務室）、文化購買事業部、学生食堂、文化北竜館、学生寮などを設置している。

対外的な活動の広がり支援と共に多角的に学生への還元を目的に、文化・服装形態機能研究所など、研究機関や付属機関、施設を設置している。

今年度も、新型コロナウイルス感染症の状況に応じた活動、支援、対応を、各施設が自らの存在意義を活かせる方法、ツールを模索しつつ行った。

なお文化北竜館は、2023 年 4 月閉館予定となった。

[学校関係者評価委員からの提言]

1.　教育・学修支援

・ファッションリソースセンターの産地交流推進はぜひ開催して欲しい。日本の伝統技術や素晴らしい文化を継承していくためにも大切な活動と位置づけられる。
・海外との交流は、将来の日本のファッションを支える意味においても活発に行っていくことを期待している。
・各部署で様々な企画と実行が行われ、課題取り組む姿勢が評価される。計画も含めて適切である。
・学校の財産と言える施設を維持し、さらなる改善への取り組みが読み取れた。
・これらは文化学園の大変貴重なリソースであり、大いに活用すべきと考える。ジャストアイディアだが、卒業生にも広く門戸を開くことを検討してはどうか。社会人になってからその価値に気づく者も多いと想像でき、また卒業後に学校へ立ち寄るきっかけとなれば、ファッション業界とのパイプも太く強固なものとする一助になるのではないか。

2.　学生生活支援

・学食や寮は学生にとって生活の充実を満たす大切な要素である。引き続き安全で快適な環境を整えていうことを期待する。
・北竜館の閉館はコストパフォーマンスの面から評価できる。
・各施設と部署は学生の健康と生活をサポートするために努力しており、様々な課題への取り組みと点検評価が行われていることが評価される。
・特にコロナ禍での工夫や対応が具体的に図られており、学生の安全と満足を考えた取り組みに努力したことが感じられる。また、収束後に向けた取り組み、が適切である。
・様々な学生生活支援を行われていることを評価する。学生への周知方法として、学院アプリやライン通知など今に即した方法を検討してはどうか。

3.　研究・対外活動

・以前は世間においてユニバーサルファッションへの積極的な取り組み姿勢が様々な場面で見受けられたが、最近は SDGs や LGBTQ の陰に隠れてあまり聞かれなくなった。社会貢献の観点からも、推進してくことに期待する。
・様々な取り組みをなされていることを評価する。
・障がい者衣料や企業との研究は本学の強みであり、継続的に活動できる重要な領域である。
・本研究所の信頼性高い企業との研究開発が評価される。
・長期間の計測データ記録は他でも活用可能なデータ分析への貢献が期待される。
・障がい者衣料や企業との研究は求められる領域であり、学園の存在意義を示す重要な取り組みとして評価される。
・計測や研究が進んでいることは評価する。一方、それを産業界や社会全体にどのようにフィードバックされていくのかが、やや具体性に欠けている印象である。貴重なデータや研究であり、ぜひ継続していき、社会へ還元して欲しい。

4）学修成果

①キャリア支援

[本学院の現状]

企業名や事業内容だけでは学生の理解が合致せず、受験につながらない小規模な企業も積極的に訪問し詳細を確認し、得た情報を学生に伝えることで、受験機会と採用につながった。

学生相談及び面接練習、履歴書・エントリーシートの添削等については年間を通じ、個々の希望や状況に合わせた対応を行い就職率向上につなげている。

下級年次生への求人情報や企業情報の送信、就職支援室サイトの閲覧時期を早めた。

インターンシップの企業研修等への活用が広がるとともに、インターンシップへの参加意欲が高まった。

インターンシップ協力企業、新卒採用企業への訪問を積極的に行い、情報交換の機会を持った。

2024 年度に新設されるバーチャルファッションコース（仮称）の 3D・ＣＧソフトウエアに対応した職種での求人状況についてヒアリングを行うとともに、実践的に活用できる人材の育成機関であることの説明に努めた。外国人留学生への就職ガイダンスを対面で実施。就職が決定した学生 2 名をパネラーとして迎え体験報告会を行い、日本で就職活動について理解が深まった。

[学校関係者評価委員からの提言]

・下級生への就職指導は継続して行っていくと良い。
・企業訪問やキャリア支援委員会での意見交換は、もっと社数を増やす方向で動くと良い。以前は企業の採用担当者も積極的に学校訪問を行っていたが、最近は外に出る余裕がなく、情報交換の機会が減っていると思う。学校と企業間でお互いに訪問し合うことが必要と思う。
・就職の実績について、就職率は他の服飾系学校に比べて高いが、決まっていない学生には販売職に目を向けてほしいと思う。就職してからいろいろなチャンスがあるので。
・様々な取り組みをなされていることを評価する。コロナ禍により各企業も内向的であったが、今後は多くの業界で人手不足が顕著となる中、「即戦力」たる本学院学生への期待は益々大きくなることだろう。
・成果が上がってきている。更なる尽力に期待したい。
・学生への支援が充実し、成果として就職率の向上が見られる。
・個別のキャリアプランや学生の気質に合わせた対応が行われており、就職指導が強化されている。
・キメ細かい支援や企業の開拓が、成果を出していると思う。
・早期より就職に対する意識づけを行い、個々人の希望に寄り添ってきめ細やかな対応をされていることを評価する。一方で、市場の二極化やデジタルファッションの台頭などファッション業界も変化しているため、今後も継続して様々な企業との繋がりを構築することが必要だろう。
・就職の意識づけ、支援は非常に重要。真摯な取り組みへの評価は適切だと思う。

②資格取得支援

[本学院の現状]

検定受験率の増加を明かるために、教室内掲示、ポスター掲示、メール配信、放送などを行った。各検定試験取得によって得られる学修効果や技術の向上等、受験の意義や資格取得メリットの周知に引き続き取り組んでいく。

[学校関係者評価委員からの提言]

・企業においては各検定 2 級の合格者には注目するが、3 級はあまり重視していないと思う。3 級取得者にはぜひ 2 級に挑戦していただきたい。ただ、2 級合格者の割合は年によって随分バラつきがある印象である。
・様々な「資格」が学生達の今後の就職活動や人生にどの様に役立つのかの周知徹底が必要と思う。企業側の「有資格者」に対する評価なども課題が残る。
・資格取得のための学習の重要性の周知が必要である。全国平均は上回りたい。
・学生に対し、資格取得のメリットを伝えることがやる気につながるのではないか。
・教職員一体となった受験意義の提示は継続的に行っていく必要がある。
・学生への周知など努力はされているが、成果が分かりにくい。科目によって合格率にばらつきが大きく、全国平均より低い科目も散見される。
・資格取得の有用性を検証、周知し続けることが必要だと思われる。
・資格取得の意義や必要性について理解しづらい。

3　学生相談体制

[本学院の現状]

コロナ禍で登校を制限された学生のニーズに合わせ、対面面接に加え、電話、オンラインによる相談体制を整え、困りごとの早期発見、介入に努めている。

障害のある学生に対して、コーディネーターを中心に関連部署と連携して学修面や日常生活の自立支援、卒業後の自立に向けたサポートしている。

就職支援室や学外の組織と連携し、進路決定のための行動化を学生に促している。

[学校関係者評価委員からの提言]

・コロナ禍で行動が制限される中での相談体制は評価できる。
・コロナ禍で各家庭の収入の問題や、アルバイトができなかったことによる対人コミュニケーション力の低下など、様々な問題を抱えている学生が増えていると思う。引き続き、きめ細かな対応を期待する。
・社会環境の急激な変化による様々なケア体制の構築が急務である。様々な取り組みをしていることを評価する。教職のメンタルケアも必要である。
・学生支援体制が社会や個人の状況に柔軟に対応し、多様な相談に応じることが評価される。
・オンライン活用や学外組織との連携など、幅広い取り組みが行われており、その対応力が評価される。
・社会環境の変化に合わせ、多様な相談方法を用意している点、学生のニーズに応えようとしている点を評価する。
・熱心な姿勢と成果が読み取れる。
・様々な取り組みが行われていることは分かるが、具体的な成果が分かりにくい。

4　経済支援・健康管理

[本学院の現状]

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を強く受けたが、感染予防対策を万全にとり、例年通りの時期に、対象学生の健康診断を実施することができた。Ⅰ部、Ⅱ部あわせた全体の受診率は平年並みの 96.7%だった。

奨学金に関する説明会を複数回実施することで、学生が適切に奨学金に申し込むことができた。一方、成績不良により廃止となる学生への対応が課題となっている。

また貸与型奨学金については、学生が必要以上に奨学金を貸与し、卒業後に返還が困難になることが課題であるため、継続願提出時には収支の差を細かく確認し、該当学生には直接指導を行った。家計急変採用や緊急採用・応急左京を申請する学生及び保護者へも、複雑な手続き方法や必要な書類について丁寧に説明を行い、学生が適切に奨学金を申し込むことができた。

[学校関係者評価委員からの提言]

・奨学金については、引き続き卒業後の負担も含めてしっかりとした情報提供をお願いしたい。
・毎年健康診断の受診率が高く素晴らしい。学生の健康管理はとても大切なことなので、引き続き継続を望む。
・奨学金、健康診断いずれも高く評価できる内容である。
・様々な取り組み対応をしていることを評価する。
・時勢に合った奨学金制度になっているか、生徒や保護者に対するアンケートなどを行い、改善も必要ではないか。
・成績不良は仕方がなく、事後のフォローなどに期待をしている。
・学生への適切なサポートならびに円滑な運営を評価する。
・適切な運営が読み取れた。

5　卒業生・社会人への支援

[本学院の現状]

卒業生の会であるすみれ会ではすみれ会の認知向上及び卒業生の活躍を紹介することを目的に、すみれ会公式サイトにおいて卒業生紹介企画を継続して行っており、本学院の公式ホームページサイトにおいても紹介を行った。

将来ファッション業界で活躍しすみれ会員として積極的に活動する人材を育成する目的で在校生対象の給付型奨学金について、対象となる学生の基準を 4 年次に進級する学生から、3 年次以上に進級・進学する学生へと緩和し、今年度は 3 年次進級学生を含むⅠ部学生 5 名に奨学金を給付した。

文化学園創立 100 周年に向け、法人及び本学院での企画進行の状況に合わせ、すみれ会においては、2023 年 6 月 24 日にすみれ会主催の 100 周年記念ファッションショーおよびレセプションを実施する。

また、卒業生に向けた新たな支援策として、海外留学サポート奨学金制度を策定し、実施準備をする。

[学校関係者評価委員からの提言]

・昨年も提言したが、同窓会の組織率はいずれの学校も下がっているのではないかと予想される。すみれ会も若者の関心は薄いのではないかと感じるため、若い会員が参加したいと思うイベント・情報交換会など企画・運営出来ると良いと思う。
・様々な分野で活躍する卒業生は、他校以上の財産・資源である。これをうまく活用できる取り組みを深く検証する必要があると思われる。
・多くの卒業生によるネットワークの更なる広がりを期待したい。
・人は複数のネットワークを持つが、アルムナイは太いネットワークとなる可能性が高く、当学院の貴重な資産と言える。連携を強化することで何かが生まれるプラットフォームとなることを期待する。
・すみれ会のファンドなどを組成して、起業支援・起業後の事業支援を行ってはどうか。
・再就職・起業支援は具体的な成果が分からない。業界の環境は悪化しており、今後は力を入れていくべき課題だと思われる。
・転職希望の卒業生に対して支援活動を行う場合、積極的に人材紹介企業を活用するのが良いだろう。
・起業支援への取り組みが確認できなかった。

5）学生支援

①学校のカリキュラム編成

[本学院の現状]

各科の人材育成目的に合わせて、基礎から実践力まで専門知識をしっかりと身に付けさせるために、教育課程編成委員会を主管に随時カリキュラム編成の見直しを行っている。

アパレル業界にて急速に拡大している 3D 分野の人材育成を目的として、既に授業として導入されている 3DCAD のほか、コンピュータを使い 3 次元（3D）でデザインを行うことができるクリエイターやモデリストの育成を目的とした新たなコースの設置準備をおこなっている。また、教科書のデジタル化を推進している。

[学校関係者評価委員からの提言]

・各科の基礎的な専門知識、技術を習得するためのカリキュラムは揺るぎないものがあると思いますが、企業の最新情報を随時取り入れカリキュラムに反映できているかには疑問が残る。

・いち早い「CLO」の導入などは評価できる。が、例えばバイヤーと MD は違う職種として捉えられていると思うが、アパレルの中では数値責任をもつバイヤーが増えており、小売り企業によってはバイヤー＝MD という構図も出来上がっている。そのような業界の変化をカリキュラムに反映していくことが必要かと思う。
・様々な取り組みをなされていることを評価します。
・学校のカリキュラム編成においても、各過程・教科のカリキュラム編成においても、時勢に沿ったカリキュラムの調査・検証が必要。
・３ＤやＤＸの取り組みなど、時期にも産業界のニーズにも対応していると思う。今後はこうした分野の具体的成果が出ることに期待する。
・デジタルファッションの拡大に対応したコースの新設など、時代に合わせた素早い対応を高く評価したい。一方で、コースが多くカリキュラムが複雑に感じる。学生は入学時に正しく選択できるだろうか。
・カリキュラムの見直しが読み取れる。新設コースに期待する。

②課程・教科のカリキュラム編成状況・授業研究

[本学院の現状]

それぞれの課程及び学科は教育理念、人材育成像の具現化に向け、特色を持ったカリキュラム編成を行っている。

実践的な教育を通して意欲向上と就職に対するさらなる意識付けをするため、特別講義、カリキュラムの見直しを行い、コンテスト活動やインターンシップ、企業とのコラボレーション活動など、学びの場が広がるよう授業研究を絶えず実施している。なお授業等は、新型コロナウイルス感染症の規制緩和により、原則対面で実施した。

[学校関係者評価委員からの提言]

1.　服飾専門課程

・服装科の卒業制作に関して「時代に即し、学生のやる気を引き出すように自由度を上げたことにより、自分で考える力が上がり幅広いデザインの作品を作ることができた」とある。非常に大切なことだと思う。これが若者たちに対する持続可能性であると感じる。
・様々な外部のコンテストなどで成果を上げていることに関して高く評価できる。
・時代に合わせた見直し、点検が行われており、入賞者なども成果も具体的に表れている。
・多彩な科目があり、企業とのコラボレーション、コンテストへの積極的な参加を促すなど、多くの学びを得られる環境であることを評価する。
・取り組みと成果が明確で適切だと思う。

2.　ファッション工科専門課程

・企業とのコラボレーションやインターンシップによって、社会との接点ができることは高く評価できる。また、就職意識の向上や、実際に就職に結びつく道が開けてくるので、引き続き企業との接点は求めていくべきと思う。
・コラボレーションやインターンシップ、ＳＤＧｓなどカリキュラムの見直しや改善が進み、具体的な成果も顕著に表れていると思う。
・指導に動画を導入、ポートフォリオの重要性を説く、多数の企業コラボレーションを実施するなど、卒業後の実務を意識したカリキュラムを追求している点を高く評価する。
・変化に応じたカリキュラムの見直しが読み取れ、適切だと評価する。

3.　ファッション流通専門課程

・概ね評価できるカリキュラムである。スタイリストコース、ファッションモデルコースの学生は自ら志をもって活動しなければ就職は難しいと思うので、その動機付けに更なる工夫が必要だろう。
・コラボレーションやインターンシップ、ＳＤＧｓなどカリキュラムの見直しや改善が進み、具体的な成果も顕著に表れていると思う。
・時代に合わせたカリキュラムの見直しが行われていることを評価する。しかし、コロナウィルス感染拡大による消費者行動や意識の変化、デジタル化や SGD's への対応など、最も影響を受け変革が求められている就職先が多いのではないかと推察され、近未来も想像しながらカリキュラムを検討する必要があるかもしれない。
・各科それぞれの充実した取り組みが評価でき、適切だと思う。

4. ファッション工芸専門課程
・昨年と同様に、テキスタイル・帽子・ジュエリー・バッグ・シューズは、専門で学べる学校が少ないので貴重な学びの場だと思う。企業への就職を目指す場合は、ターゲットも限られてくると思うので、より就職に繋がる産学連携を目指す必要があると思う。
・テキスタイルに関しては、昨今のスポーツ・アウトドア需要の拡大から特殊加工の素材開発や海外との取り組みが盛んになっている。日本の伝統工芸的なテキスタイルだけでなく、合繊メーカーとのコラボなど実現できると実践的だと思う。
・企業・産地とのコラボレーション、あるいはサステイナビリティーへの取り組みなどが、実学としても定着している点を評価する。
・企業コラボレーション、コンテストへの参加、インターン実施など、各科とも積極的に外部との取り組みを行っている点を高く評価する。
・それぞれカリキュラムの改善が見られ、評価できる。

５．Ⅱ部服装科・Ⅱ部ファッション流通科
・Ⅱ部の学生はファッション業界への就職、または転職を目指して通学していると思うので、就職に関する点検・評価がないことに若干違和感を感じる。
・多様性を尊重した指導や授業形態などで効果を出していると感じた。
・対面とオンライン、両方の良さを取り入れ、効率的に学習できるよう工夫されている点、多様な背景を持つ人へ学びの機会を提供できている点を評価する。

6.　関連科目
・様々な授業に取り組んでおり、高く評価できる。学生間の実力差・能力差が大きく、指導に難しい点はあると思うが、ボトムアップ目指して取り組んでもらいたい。
・学生の意欲を引き出す努力を評価する。留学生への対応も適切だと思う。
・様々な関連科目が用意されているが、新しいことを教えることは先生方の多大なる努力の上に成り立つものであり、それぞれ工夫して運営されている点を評価する。また、教える側も学生側も、動画がキーワードのように見受けられる。ビデオ教材の充実と共にシラバスも動画で表現すると伝わりやすいのかもしれない。
・各科それぞれの改善と成果が読み取れ、適切だと思う。

③学外授業
[本学院の現状]
昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症の状況等により宿泊を伴う学外実習（コミュニケーションキャンプ）は中止し、クラスの親睦を深めることを目的とした

代替研修を実施した。
　研修旅行は感染対策として、部屋をシングルベース、バスは 2 シートに 1 人を上限とした台数で手配をし、安全に配慮しながら全ての科で宿泊を伴う内容で実施した。昨年度実施を見送ったファッション流通高度専門士科のニューヨーク研修も実施したが、一部傘下に不安な学生で、希望者は国内研修に参加した。
　企業研修、インターンシップについては、学科の特性や学生の希望職種の幅が拡大していることから、新規受け入れ先の開拓を積極的に行った。
　コラボレーションについては、「ステップアップした学び」に繋がる内容となるよう企業側に提案、調整をしながら実施した。各企画は、産学連携事業覚書を取り交わし、権利関係の帰属先について明確化するなど整備にも取り組んだ。
　各コンテストの募集要項や審査通過者、受賞者を学生および教職員に即座にメールにて共有し、連携強化に取り組んだ。コンテストへの参加意欲の高い学生も多いが、各コンテストへの応募数や受賞数の減少が見られたため、最終審査会において作品を制作する場合、制作費および交通費の一部補助を基本とした制作補助費の支給規程を制定し、学生の負担軽減を行った。

[学校関係者評価委員からの提言]
・学外実習や海外研修等それぞれの実施可否の判断は評価できる。
・インターンシップの受け入れ企業も精力的に働きかけができており、この調子でどんどん増やしていくのが良い。
・コラボレーションに関してはデジタルコンテンツ系の取り組みが足りないと感じる。各社、インフルエンサーマーケティングや、自社インフルエンサーに新規ブランドの立ち上げチャンスを与えたりしているので、学生にもＳＮＳでのファッションマーケティングを企業と体験する場を提供できると今後のためには有効だと思う。
・夕方からのアルバイトを兼ねた販売実習にきてほしいという企業は多いが、具体的なアクションになっていない。このような相談は今後可能か。
・インターンの効果を評価。
・インターン先、コラボレーション先企業の開拓を継続するのが良い。
・コンテストのチート研究に期待したい。
・コロナ禍から日常を取り戻す中での取り組みは大変だったと推察する。学外実習は予算の見直し、インターンシップでは事前の調査によるミスマッチの解消を進める必要がある。
・状況に合わせながら学外学習を実施してきた点を評価したい。新型コロナウィルス感染症は完全にはなくならないし、不安定な社会情勢や物価上昇など、多くの困難があるとは思うが、学生時代の海外研修経験は貴重な財産となるため、ぜひ継続して欲しい。
・インターンシップ、コラボレーション等、社会と接点を持つ実りある取り組みが見られ、評価する。

④学校行事
[本学院の現状]
　入学式は対面で実施をしたが、新型コロナウイルス感染症対策として、保護者についてはライブ中継を別室にて視聴する方式をとった。また、新入生特設サイトを設置し、クラス分け等の情報を事前に確認できるよう情報発信を行うことで、密の状態回避と、学生スタッフ人員削減など、新型コロナウイルス感染症終息後においても参考となるオペレーションとなった。
　新型コロナウイルス感染症の終息には至らないものの、対策を講じてオフラインイベントを開催した。文化祭については、ファッションショーの観覧やバザー、学生に

よるセレクトショップ（RE・TENT）では入場制限を設けるなど、密な状態を作らないよう工夫し、実施した。また、例年実施している 4 月のドレスコードデーの開催は見送ったものの、学友会催し物委員会主催で、学生がテーマカラー（オレンジ&パープル）に沿ったスタイリングをハッシュタグをつけて Instagram に投稿、人気投票の結果を文化祭野外ステージにてお披露目をするなど、コロナ禍におけるイベント開催の形を模索し、実施した。

[学校関係者評価委員からの提言]

・コロナへの配慮で大変苦労したことと思うが、日常が戻りつつあり、学校にも活気が戻ってきたと感じた。リアル開催をメインに引き続き様々なアイデアで学生の満足度を高めていくのが良い。
・コロナ禍において、コロナ感染症拡大防止策を徹底したうえで各行事の実施について様々に創意工夫された教職・学生の対応を評価する。
・感染拡大防止策を徹底しながら、工夫してオフラインイベントを実施するなど、豊富な内容で実行したことを評価する。

⑤課外活動

[本学院の現状]

コロナ禍の影響が残る中ではあったが、委員会・クラブの活動を再開した。委員研修会を学内で実施し、事前に学友会が学生を対象に行ったアンケートを元に、教育環境の改善や各課程の特徴、カリキュラムについて学校側と話し合いを行った。対面でのクラブ勧誘により、部員数増加につながった。学生のリーダーシップを身に付ける機会として、「BUNKA CREATORS MARKET」（7 月、2 月の 2 回実施）、「残布回収・配布」活動などを行った。

[学校関係者評価委員からの提言]

・学友会の具体的な活動内容がよく理解できず、評価に苦慮した。
・社会貢献や交流の具体的な内容と育成されたリーダーシップの背景を教示願いたい。
・在校生達の自主性を重んじた活動を評価する。
・時勢に沿った学友会の活動も必要ではないか。
・コロナへの対応を含めて、学生の自主性を促す取り組みになっており、活動は適切である。
・学校生活もコロナ禍前に近い形に戻りつつあるようだが、何が最適なのか、学生達が自主的に今にあった形の学生生活を形作っていくことを期待したい。

⑥教育・成績評価

[本学院の現状]

新型コロナウイルス感染症の感染状況に対応した試験・評価の調整を予定していたが、今年度の授業体制は原則通常授業としたため、試験も含め調整はなく、通常通り実施した。また、対面授業に相当する教育効果が得られる場合は、オンライン授業の実施を可能とした。教室のアルコール消毒や手指消毒、教職員と学生のマスク着用の徹底は引き続き実施し、安全第一に対応した。

[学校関係者評価委員からの提言]

・大きな混乱や問題もなく対面での通常授業に戻れた点を評価したい。オンラインの良さもあるが、対面で得られるものも多いと思う。
・様々な取り組みをなされていることを評価する。
・適切な対応と評価であり、特に問題はない。

⑦退学者への対策

[本学院の現状]

退学者の人数や理由を学科別に集計し、資料作成、動向の分析を行っている。昨年度に比べ、退学者数、退学率共に減少したが、1 年時生次が占める割合が高いのは例年通りである。一方で、2 年生次での増加もみられる。また、新型コロナウイルス感染症の後遺症の影響による体調不良に起因した退学も散見された。

外国人留学生の退学者に対する動向確認、指導をクラス担任と学籍担当者が連携して行った。留学生の退学理由について、在留資格不許可以外では学業不振、進路変更等一般学生との大きな違いは見られなかったが、学業不振の原因が日本語能力不足の影響が大きいことが担任所見より判明した。

[学校関係者評価委員からの提言]

・退学者はいつの時代も、どの学校でも一定数いることは変えようがない。継続してその動向把握と、教員の働きかけなどを行っていくこと。
・様々な対応を行っているとはいえ、なかなか正解が得られない項目と思われ、教職員皆の努力を評価する。
・退学者に関する対策は非常にデリケートで、難しい問題であるので、引き続き早期の対策が必要。
・学校だけの取り組みでは解決が難しい課題も多く、学業不振や留学生の語学力不足は致し方ない問題であると思われる。ただし、コロナ後遺症なども増えており、事後のフォロー強化も必要ではないかと思う。
・退学の理由など現状把握ができている点を評価するが、退学者に対する対策が必要だろう。
・重要な課題として対策が検討されている点で適切だと評価する。

⑧学生募集

[本学院の現状]

新型コロナウイルス感染症に関する規制緩和に伴い、イベントの中止はなかったが、引き続き人数制限等感染防止対策を講じて来校型イベントを実施するとともに、オンライン説明会・個別説明会を年間を通じて開催した。また、高校内で行われるガイダンスへの参加や、地方での独自ガイダンスを実施するなど対面での説明に力を入れた。

多くの動画コンテンツを作成し、本学院 YouTube 公式チャンネルや Instagram に定期的に投稿、ファッション流通科プロモーションコースの学生制作の動画等も増えている。SNS を通じて本学を認知したという入学者や資料請求者のアンケート結果より、Twitter、TikTok などの SNS を活用した募集にも努めた。

[学校関係者評価委員からの提言]

・Instagram のフォロワー数も多く、引き続き情報発信に努めることが必要である。
・SNS やホームページ、学校案内に関して、毎年学生や保護者にアンケートを実施するのもいいだろう。
・学校説明会、学校見学などがどのような内容で行われているかわからず、学校関係者評価委員には評価が難しい。
・少子高齢化の中で重要項目であることは間違いなく、様々な取り組みをされていることを評価する。併せて教職の方々の苦労が伺える。
・SNS などからの広報活動は効果的であるとともに、ネット上の学院の説明や入学の動機付けには限界があるように感じる。

・高校への訪問が大切であることを実感したとあるので、これまでの入学者へのアンケートを行い、何がきっかけで入学希望になったかなどの検証を行う必要があるのではないか。
・企業訪問など努力が行われています。ウェブ出願の効率化や改善策に期待する。広報活動も努力や工夫を評価した。
・SNS 発信といった学生に向けた手法が取られている点、オンライン説明会で費用対効果の高い手法を実施している点が良い。動画コンテンツの充実が今後の鍵になりそうだと感じている。
・特に広報活動にはまだ課題があると考えます。

⑨国際交流

[本学院の現状]

法令に基づいた適切な留学生の管理を継続して行った結果、東京出入国在留管理局留学審査部門より「適正校」の選定を受けた。留年し復学した留学生の在留資格の取り消しや更新不許可となるケースがみられる。留年学生に対し、留年をする際のリスク周知と、学修意欲の確認をさらに徹底する。

本学院は中国上海と中国大連に提携校が 2 校あり、随時協議を重ね協力、連携し、概ね順調に運営されている。

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行に伴い年度前半はウェビナー等での交流となったが、後半の出入国規制の緩和に伴い、海外のクリエーター等が来校して行うセミナーや学生が海外の審査会に赴くなど、対面での取り組みが多数実施された。

[学校関係者評価委員からの提言]

・他校には真似できない広範囲な国際交流を行っており、高く評価できる。特に提携校との交流や海外コラボレーションにおいては、学校 PR にも活用できる内容である。一方、留学生の受け入れと就職について考査が必要です。ファッション企業各社も留学生の採用は必要不可欠という認識ではいるものの、採用面接段階で日本語力が劣る学生の採用は見送っているのが現実である。日本語能力試験の最高級であるレベル N1 の資格保持者でも入社後、コミュニケーションがとれない、業務に対する理解が進まないなど、かなりの個人差がある。入学の際に日本語力を見極めるのか、あるいは入学後、学内でもっと日本語力を強化するのか検討が必要だと思う。
・様々な取り組みを行っていることを評価する。安定化した国や地域との交流に留まらず、対象範囲を広げる取り組みも必要だと思う。
・人口減少する日本国内の学生募集を増やす取り組みよりも、留学生の門戸をさらに大きく増やす取り組みを戦略的に行ってはどうか。
・入学金・授業料も日本国内からの入学者と留学生とで差別化し、留学生の対応に必要な原資を捻出することで受け入れに必要な人とシステム投資等を行う必要があるのではないか。
・海外と様々な取り組みが行われている点を評価する。ファッション企業が生き残っていくためには、縮小する日本市場だけでなくグローバルで考えていく必要があり、学生のうちから海外へのハードルを下げておくことは今後のファッション人材育成において重要だと考える。クラス内外で国際交流が進むことを期待する。
・課題は大きいものの、取り組みに対しては評価できるとう。
・留学生の受け入れには課題が多いように思う。また、合作校はビザ取得など課題が多い。一方、外部団体・機関の連携は顕著な成果が出ている。これは別項目でもいいのではないか。

5.　学校関係者評価を受けて

学校関係者評価委員会の委員の皆様には、ご多忙の中、委員をお引き受けいただき心より感謝申し上げます。

外部の方々から学校運営ならびに教育活動に関し具体的な評価を頂戴することは今回で 11 度目となります。今回もファッション業界における製造部門、人事部門、メディア部門、プロデュース部門等の皆様から多岐にわたり、幅広い視野での提言を頂戴することができ、改めて外部評価の重要性を痛感しております。また、日ごろの文化服装学院の教育活動に対し、賛同と高い評価をいただき大変ありがたく存じます。

2022 年度文化服装学院自己点検・評価に対する学校関係者委員から頂戴した提言を今後具体的に活用するため、内部評価委員を中心に検討会を開催していきます。検討会では学校関係者委員からいただいた多数の提言のうち、横断的かつ早急に取組む課題の共有を行い、次年度の目標とさせていただきます。検討会の結果は職員会議や文書で周知に努め、改善に取組んでまいります。

また本学院では創立 100 周年を迎えるにあたり、永続的に教育活動を行っていくための様々な分野における再構築を進めております。今回頂戴したご意見はそちらにも生かす所存です。

今後とも自己点検・評価ならびに学校関係者評価を継続し取組んでまいりますので、皆様方のご協力を賜りたくお願い申し上げます。

ご尽力いただきました委員各位には改めて深く感謝申し上げます。

6.　学校関係者評価委員会開催日程

第一回
2023 年 7 月 5 日（水）15：30～17：00

場所：文化服装学院　C 館 4 階　C041 国際会議室

メンバー（敬称略・順不同）
委員：澤田勘志、芦川照和、松本ルキ、木島　広、矢野　剛、岡本真理子、
小湊千恵美
オブザーバー：相原幸子、門井緑、吉村香、早渕千加子、朴澤明子、野原美香、
朝日真、山口容子、飯塚有葉、井戸川倫也、飯島康志、伊賀美咲、
渡井邦重、小林克也、浜田法子、吉田和代、三宅貴子

配布資料：・2022 年度文化服装学院自己点検・評価
・文化服装学院　自己点検・評価
内部評価委員による評価表及び学校関係者評価委員による評価表
・学校関係者評価委員名簿
・2022 年度学校案内書／学科一覧

第二回
2022 年 9 月 20 日（水）15：45～17：00

場所：文化服装学院　C 館 4 階　C041 国際会議室

メンバー（敬称略・順不同）
委員：澤田勘志、芦川照和、松本ルキ、木島　広、矢野　剛、岡本真理子、
小湊千恵美
オブザーバー：相原幸子、門井緑、吉村香、早渕千加子、朴澤明子、野原美香、
朝日真、山口容子、飯塚有葉、井戸川倫也、飯島康志、伊賀美咲、
渡井邦重、小林克也、浜田法子、吉田和代、三宅貴子

配布資料：・文化服装学院　自己点検・評価
内部評価委員による評価表及び学校関係者評価委員による評価表